



## 稀代の画家、 デイエゴ・ベラスケスを読み解く

舞台は17世紀のスペインです。そして、このスペインを代表する稀代の画家こそが、デイエゴ・ベラスケスです。代表作の《ラス・メニーナス》（口絵1）は世界三大名画のひとつともいわれる名作ですが、これを描いたベラスケスのことは、あまり知らない人もいるのではないのでしょうか。

実はベラスケスは、宮廷画家としてフェリペ4世に仕え傑出した作品を輩出するとともに、役人としても活躍していました。彼がどのようにして宮廷画家となり、どんな人生を歩んだのかを明らかにするため、パターンAの組み合わせ「3P」「ストーリー分析」「A-PEST」を使って読み解いていきましょう。

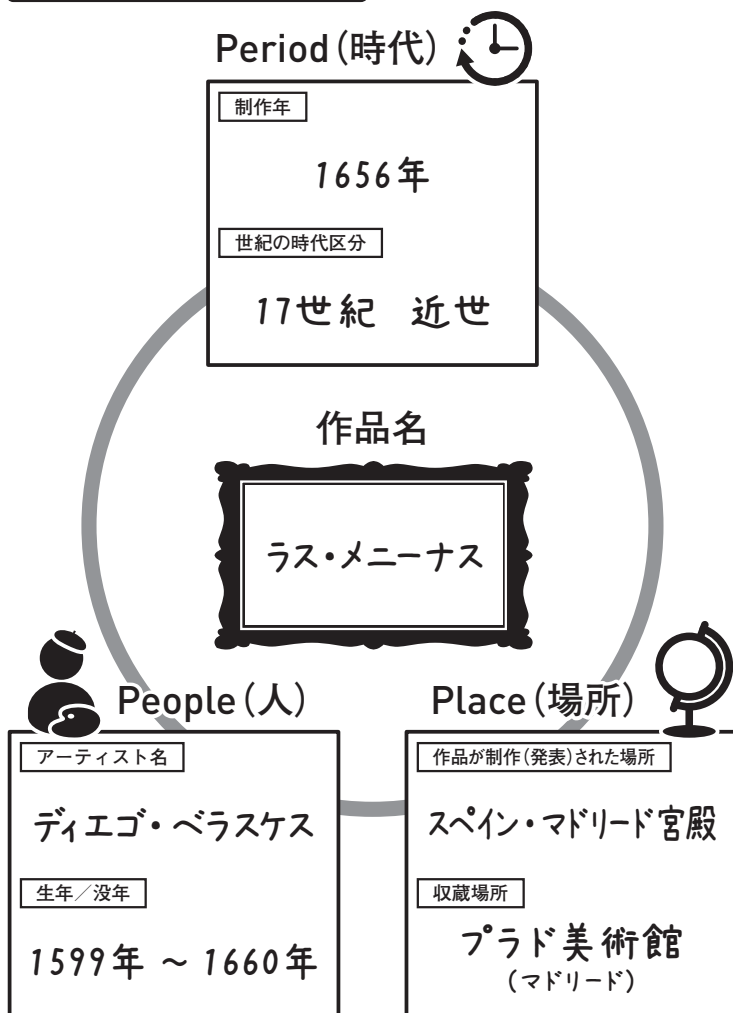
## 「3P」でベラスケスを概観する

まずは、ベラスケスの代表作《ラス・メニーナス》の「3P」を整理しましょう。

時代は、17世紀のスペインです。これは、大航海時代の後半にさしかかり、日の沈まぬ国スペインに衰退の兆候が色濃く見え始めた時期です。このような時期に、ベラスケスは当時の国王フェリペ4世に寵愛<sup>ちやうあい</sup>され、宮廷画家としてその類稀<sup>たぐいまれ</sup>なる才能を発揮しました。ピカソやダリといった後に続く巨匠にも多大な影響力を与えた、スペイン最大の画家のひとりにして、バロック美術を代表する稀代の画家です。

以上のことを整理して記入したフレームワークが次ページになります。

## 3Pのフレームワーク



## 「ストーリー分析」でベラスケスの人生を読み解く

「3P」の情報を踏まえ、ベラスケスの「ストーリー分析」を行います。はじめに、私が記入したフレームワークを示します（次ページ参照）。

### STEP1 旅の始まり「どうやってアーティストとしての人生が始まった？」

ベラスケスは、スペイン南部の都市セビリアの生まれです。父親は早くからベラスケスの絵の才能に気づき、11歳のときに、この地で有力な画家フランシスコ・パチェーロに弟子入りさせます。ここでもその技量や姿勢が大いに評価され、1617年に独立し、翌年には師匠であるパチェーロの娘のフアナと結婚し、画家としての人生が本格的に幕を開けます。

### STEP2 師匠、メンター、仲間「どんな出会いがあった？」

師匠のパチェーロのもとで、彼に絵画の基礎を習い、技術を高めていきました。パチェーロは、絵画だけでなく文学や哲学にも精通しており、こういった部分でもベラスケスは影響を受けました。娘のフアナとの結婚を認めていることから、ベラスケ

# ストーリー分析のフレームワーク

アーティスト名

ディエゴ・ベラスケス の人生

没年:

1660年8月6日

## STEP 1

どうやってアーティストとしての人生が始まった？

Calling/Commitment 「天命」「旅の始まり」 Threshold 「境界線」「最初の試練」

生年月日

1599年6月6日

生まれた場所

スペイン・セビリア

アーティストになったきっかけは？

- ・父が絵の才能を見いだす
- ・師匠パチェーコに弟子入りし、さらに才能が開花



## STEP 2

どんな出会いがあった？

Guardians 「師匠」「メンター」「仲間」

師匠やメンターは？

師匠パチェーコ



ライバルや友人、恋人、夫や妻などは？

- ・ライバルはバロック絵画の大家ルーベンス
- ・妻はパチェーコの娘フアナ



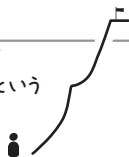
## STEP 3

人生最大の試練は？

Demon 「悪魔」「最大の試練」

どんな試練がありましたか？ 例えば、伴侶の死や大批判、金銭的困窮、健康問題など

- ・宮廷画家に選任されるために国王フェリペ4世の肖像画を描くという試練



## STEP 4

その結果、どうなった？

Transformation 「変容」「進化」

どのように乗り越え、どのように変容していききましたか？

また、作品はどのように変化していききましたか？

- ・「ベラスケス以外に肖像画を描かせない」と国王フェリペ4世に言わせるほどの実力を発揮し、以降その実力を遺憾なく発揮



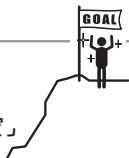
## STEP 5

結局、彼／彼女の使命は何だった？

Complete the task 「課題完了」 Return home 「故郷へ帰る」

結局、このアーティストの使命（成し遂げたこと、後世に与えた影響など）は何だったのでしょうか？

- ・画家の地位向上
- ・死後数百年以上経過している現在も、「画家の中の画家」と評されるほどの影響力



スの画家としての技量や才能、そして、人間性などを彼が高く評価していたことがわかります。パチエーコはスペイン宮廷とつながりがあり、この出会いこそが、ベラスケスが宮廷画家になることを決定づけたといえるかもしれません。

1628年、ベラスケスが宮廷画家になった後のことです。すでに画家としても外交官としても名声を確立していたバロック絵画の巨匠ピーテル・パウル・ルーベンスがマドリードを来訪しました。まだ駆け出しの才能あふれる若者だったベラスケスと50代を迎えていたルーベンスは、年の差を超えて、お互いに影響を及ぼしました。

そして、ベラスケスはルーベンスに勧められ、翌年イタリアに向かいます。ルネサンスの巨匠たちからも影響を受け、作風がどんどん進化していきました。

### STEP3 試練「人生最大の試練は？」

1620年代のはじめには、ベラスケスの絵画はすでに評価が高まり、地元セビリアでは評判になっていました。そして、1623年に大きなチャンスが訪れます。当時の若き王様、フェリペ4世のお気に入り画家が亡くなり、宮廷画家のポジションに空きがでたのです。

義父と交流があつた首席大臣のオリバーレス伯爵から、マドリードに来るよう召集



がわかります。宮廷画家という夢を実現するために、ベラスケスは避けては通れない試練に挑むことになるのです。

#### **STEP4 変容・進化「その結果どうなった？」**

召集を受けたベラスケスは国王フェリペ4世の肖像画を描きました。この肖像画を見たフェリペ4世は、「ベラスケス以外に自分の肖像画を描かせない」と宣言するほどその絵を気に入りました。以降、ベラスケスはフェリペ4世の寵愛のもと、宮廷で絵を描き続けました。

このように類稀なる才能と格別の待遇をきっかけに、他の宮廷画家から妬まれ、嫌がらせを受けることがあったようです。そこで、フェリペ4世は、ベラスケスの実力を内外に示すための歴史画を描くコンクールを行いました。見事にベラスケスが優勝し、その実力は正式に認められることになりました。この優勝の褒美として、ベラスケスは宮廷の公務を行う地位を贈られ、役人としての仕事が始まったのです。その後30年以上にわたり、宮廷画家として、宮廷の庶務を行う役人として、亡くなるまで二足のワラジをはきました。

## STEP 5 使命「結局、彼／彼女の使命は何だった？」

ベラスケスは、「役人」と「画家」の2つの役割を全うし、自身が掲げていたであろう「画家の中の最高位である宮廷画家として活躍し、画家の地位向上を果たす」という理想のもと、宮廷で粉骨砕身、自分の役割を果たしていたと考えられます。その影響は、ゴヤ、ピカソ、ダリなど、後に続くスペインの巨匠たちにも及びました。また、リアリズムと印象派の橋渡し役となった偉大な画家であるマネからは「画家の中の画家」と評されるなど、当時の王宮という限られた場所から飛び出し、アートヒストリーに多大な影響を与えました。死後数百年が経過してもなお影響力を発揮し続けているのです。

## 「A-I-P-E-S-T」で17世紀スペインを読み解く

続いて「A-I-P-E-S-T」でバロック美術様式を読み解いていきます。17世紀は、最盛期を迎えたヨーロッパ各国で芸術が花開いた時代です。私の記入したフレームワークは、次ページの通りです。





# A-PESTのフレームワーク

国・地域

スペイン・マドリード

主な年代

17世紀

## Politics (政治)

**着眼点** 政治動向／戦争などの争いの状況／政治体制／国家の方針

**Q** その国は当時、どのような政治体制が敷かれ、どのような政策を行っていましたか？  
争いはありましたか？ あった場合は、どの国や地域と協働／対立したり、戦争を行っていたりしていましたか？

- ・スペインの国王フェリペ4世の治世
- ・三十年戦争（1618～1648年）の勃発などを契機とする17世紀の危機
- ・スペイン王国は衰退の一途をたどる



## Economics (経済)

**着眼点** 景気動向の変化／特筆すべき恐慌や不況の有無／消費動向の変化

**Q** 当時の景気状況はどのようなものでしたか？  
また、その景気の状況は、どんな理由から引き起こされていたか？  
例えば、どのような産業がその国において発展していききましたか？

- ・オランダが独立
- ・これによる税收激減や三十年戦争の介入による国家財政の圧迫などスペイン経済の悪化を加速させた



## Art (美術様式)

初期ルネサンス美術

盛期ルネサンス美術

マニエリスム

バロック

ロココ美術

新古典主義

ロマン主義

リアリズム

印象派

ポスト印象派

フォーヴィズム

表現主義

キュビズム

シュルレアリスム

抽象表現主義

ポップアート

ミニマリズム

コンテンポラリー

その他 (

)

**着眼点** 新たな美術様式／歴史を変えたアーティスト／文化の発展

**Q** あなたが読み解きたい作品やアーティストは、何と呼ばれる様式に分類されますか？  
また、その様式の特徴は、どんなものですか？

- ・17世紀に最盛期を迎えたヨーロッパ各国で芸術が花開いた
- ・プロテスタントに対抗するために、カトリックが美術の力を利用
- ・絵画、建築、彫刻すべての分野にわたって、動的でダイナミックな表現がとられ、芸術が発展



## Society (社会)

**着眼点** 人口動態／社会インフラ／宗教／ライフスタイル／社会事件／流行

**Q** 当時、社会にはどのような変化が起こっていましたか？ また、その理由や背景は？

- ・封建制度
- ・教費調達のため、農民への課税を強化
- ・これが引き金となり「カタルーニャの反乱」が勃発するなど社会が混乱



## Technology (技術)

**着眼点** 発明品／技術進歩／大発見・発明／科学革命／産業革命／IT革命など当時の人々に大きな影響を与えた「革新的技術の登場」

**Q** 人々の生活を便利で豊かにする発明や技術進歩、技術革新には、どのようなものがありましたか？  
そのような技術革新は、どのような背景から誕生しましたか？

- ・16世紀末から顕微鏡や望遠鏡などが発明される
- ・数学的に物事を説明する科学が進展
- ・この「科学革命」登場の背景は、スペインをはじめとするヨーロッパの「17世紀の危機」と呼ばれる混乱



## Art (美術様式)

**Q1** あなたが読み解きたい作品やアーティストは、何と呼ばれる様式に分類されますか？

その様式の特徴は、どんなものですか？

16世紀にカトリックへの反発から新たな宗派「プロテスタント」が登場しました。このプロテスタントに対抗するために、カトリックが利用したのが美術の力でした。絵画、建築、彫刻すべての分野にわたって、動的でダイナミックな表現がとられ、芸術が発展し、文化が大きく開花したのです。

## Politics (政治)

**Q2** その国は当時、どのような政治体制が敷かれ、どのような政策を行っていましたか？

争いがありましたか？ あったとすれば、どの国や地域と協働／対立したり、戦



争を行ったりしていましたか？

「太陽の沈まぬ国」として、スペイン王国は16世紀末に最盛期を迎えます。これはフイリピンなどのアジアでの植民地支配の強化や、ポルトガル併合などを行った結果によるものです。しかし、17世紀に入ると、三十年戦争（1618～48年）の勃発などを発端とする「17世紀の危機」と呼ばれる状況を招き、スペイン王国は衰退の一途をたどります。特に、ベラスケスを寵愛したフェリペ4世の治世において、その衰退は決定的なものとなりました。

## Economics（経済）

**Q3** 当時の景気状況はどのようなものでしたか？

また、その景気の状態は、どんな理由から引き起こされていたか？

例えば、どのような産業がその国において発展していききましたか？

17世紀にオランダがスペインから独立します。オランダからの多大な税収に頼って

いたスペインは、経済的にも困窮しはじめます。また、国内で目立った産業が育たなかったことや、三十年戦争への介入による国家財政の圧迫などが重なり、経済的な困窮が加速し、衰退が決定的なものとなりました。

## Society (社会)

**Q4** 当時、社会にはどのような変化が起こっていましたか？ また、その理由や背景は？

戦乱の多発、ペストの流行、魔女狩りなどが原因で人口が減っていきます。

当時のスペインは封建制度をとっていました。三十年戦争の戦費調達のため、農民への課税を強化すると、カタルーニャ地方において、不満が爆発した農民の反乱が起きます（カタルーニャの反乱）。国民の不満は募っていきました。



## Technology (技術)

**Q5** 人々の生活を便利で豊かにする発明や技術進歩、技術革新は、どのようなものがありましたか？

そのような技術革新は、どのような背景から誕生しましたか？

17世紀は、自然科学が急速に進展した時代です。顕微鏡や望遠鏡が発明され、科学革命と呼ばれる一連の動きが広がりを見せます。これには、ヨーロッパにおいて「17世紀の危機」と呼ばれる混乱の世紀が背景にあります。それまでの「神頼み」のような状況から、科学や論理といった、データ分析技術や学問の発達が促進されたのです。これらは、18世紀以降におこる産業革命のベースになりました。

以上が「A P E S T」のまとめです。当時は戦いが数多く勃発し、政情が不安定でした。そして、経済的に非常に困窮しスペイン王国の衰退が顕著になる中で、社会も動揺していました。

実は、歴史的に見ても、**経済の衰退局面や戦乱の世には文化が花開く傾向があるの**

です。フェリペ4世は政治的な能力は発揮できませんでしたが、宮廷文化の発達へと導きました。そして、スペイン美術の黄金時代を築き上げたのです。

その中で最も重要な天才画家のベラスケスは、宮廷画家として自由かつ独創的にその才能を発揮することができました。

## ディエゴ・ベラスケス まとめ

17世紀のスペインは、政治、経済ともに、衰退の兆候が明確になり始めた時期でした。そして、「17世紀の危機」と呼ばれる社会情勢のもと、実験やデータをベースとする物事の捉え方が登場し始めます（科学革命）。

しかし、この危機のひとつがスペイン王国の衰退です。当時のスペインは財政難や政情の不安定な状況などがまん延し、日に日に不透明さが増していく状況でした。この状況を尻目に、国王フェリペ4世は、まるで逃避するかのように美術にまします傾倒していきしました。その彼が寵愛した人物こそが、飛び抜けた実力を持っていたベラスケスでした。

幼少期からその実力を遺憾なく発揮した結果、ベラスケスはフェリペ4世にその



絵の実力に惚れ込まれ、めでたく宮廷画家として任命されました。フェリペ4世に大変信頼され、役人の地位も与えられ、仕事を遂行し出世していった結果、異例中の異例ともいえる騎士団への加入が認められます。

ペラスケスは、その並外れた画力と斬新なタッチ、そして、役人という二足のワラジによって、スペインを代表する画家となりました。特に、人類の宝ともいえる《ラス・メニーナス》は、ゴヤやピカソ、ダリといったスペインを代表するアーティストたちによって、いくつものオマージュ作品が残されています。

また、マネからは「画家の中の画家」と評されており、後世の画家たちに多大なる影響を与えました。